

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.5

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43886

166

極秘

外務大臣訪米随行報告

44.6.7 米局長

大臣訪米に随行して特に気付王の兵とりまどめ
以下のとおり報告する

- 1. 仲絶通達交渉については、いわゆる FIRST ROUND
として十二分の成果を収めたと言ふ。即ち、
 - (1) 米側は 現行交渉経路及び関連取決めの枠内
において通達を握ると言ふ我々の立場を原則
的に受け容れ、その方向で今後の折衝を進める
ことに合意したこと
 - (2) 前記枠内での解決の方法論として、総理大院
領共同声明の中で提議した言ふ我々の立場
に従い、共同声明の案文に付、検討を進めること
に合意したこと。(従つて、従来の困難な経路に
程み ~~は~~ いわゆる FORESEEABLE CASES を検討
して共同声明に到達せんとする我々の提議に
ついて、今回の会議においてその段階を越え

再
米
局長

FORESEEABLE CASES は単に共同声明案文作成
の参考材料として扱ひ得るにとどまらぬ)

- (1) 米側は通達に伴う地域面の安全性を強調し
たが、これは即ち米政府が通達を如何に現
実の問題として考へてゐるかと言ふ所であらう。若し
総理訪米までに ~~は~~ 何言かの案文について、
合意しようと言ふ米側の希望が達成し得る程
に折衝が進むならば、爾後通達交渉はそれ
だけ容易になるであらう。
- 又、今回の折衝が上記の如く我々の期待通り進捗
したとするも、それは今後の折衝の難易と作ら
ざる問題である。即ち、
 - (1) 自由と専らについては、朝鮮半島中心の我々の
考案と、欧米側を念及、北東地域を考へてゐる
米側との間には大きな懸隔あり。これを日米
双方が受諾し得る公表共同声明の字句に
まとめることは至難の業であり、如る共同声
明の解決と言ふようなものを作らざるを得ない

こととちがひを得るし。

(12) 核兵器については、通常時には撤去(大減退に
する)ことを目標に、米側が努力を怠らぬこと
や、一徹断言したか、假令米側がそのまゝで
譲るとするも、非常事態における持ちこたへて
何らかの形の了解を求めようことは必要であ
る。この問題は今後最も困難なものとなるべく
遺憾なく、今日の段階で、片末を卒断する
ことは出来ない。

3. 今回の会談を通じ、ニクソン政権の米が国に對
する姿勢が、いさゝか形ではっきりと示された。即ち、
(1) 経路の外務大臣大塚純合談において、ニクソン大塚
経路の姿として、太平洋地域に大なる関心を
有すること、並びに日米両国が協力して、乃至は
日本の積極的役割を米側が補充する形に
あつて、太平洋地域の安全を固めて行くべき
こと、を直截に述べたことは極めて印象的であ
つた。

(12) 同時に大塚純合談の各閣僚が異口同音に
述べたことは、米側の協力方針として、いわゆる
AMERICAN PRESENCE といふものは、続き得る
と云ふことである。例へば、(1) 大塚経路自身 1967年
FOREIGN AFFAIRS 論文並みに 1953年日米協定に
あつた演説に於いては、日本が CONVENTIONAL
の分野において、艦艇軍艦などで責任を負ふ
ことを期待するといふ述べ、(2) 外務大臣は記者
会見において、日本はアジアにおける経済援助に
積極的に関与し、安全保障の分野において
は、役割を引き受けたい、と云ふ意味で、日米両
国間の使命は補充的であるとの趣意を述べ、
(3) 経路大臣は、中絶途途に於いて、国際收支上は、
予見せず、米側には LOSS があること、これは
国内を脱却し、競合と競争し、(4) 国防大臣は
安全保障、北方領土問題、中共の核能力脅威の
評価等の長に及び、日本の国内情勢に及び、仔細
に質問を試みる等、今後の米側のアジア政策
の華実性。

の形成について、わが国の動きが重要な要素と
なり得ることを示すものである。更に会後の10月
以外にあり、例として、予力の権威 RICKOVER
海軍中將などが、十一年後の日本はどうかと
尋ねるか、と質問する等、半國指導層の対日敵意が
今後如何に移り行くか、わが方として充分の心算を
とらねばならない。

4. これを要するに、片側通商問題は、今後何か月か
の二ヶ月にわたる HARBOR BARGAINING により、
交渉交渉の際に、合意の達成し得ることを期待さ
れるが、わが政府としては、その様な機会に、わが国
の進むべき方向を確守する態度を以て内外に示す
ことが極めて重要であると思はれる。半國內に
おいては、異國に責任分担を求め、声は日を追
て更に強化すべく、半國政府としては、そのアテ改
定の OPTION はますます狭められ、行われていく。その
趨勢の中で、わが国の安全と繁栄を確保し、行く
ためには、わが政府がその進むべき方向を明らか

に、政治的・経済的責任を自主的に遂行するの
決意を示し、以て半國を以てこれに協力せしめ
よう誘導するの心算がなされてはならぬであらう。
日米関係は、かくして、戦後初めて本格的な轉
機を迎えようとする、感深きものあり、而もこの
轉機に処するわが方の態度は、正しく、國の進路
を左右する性質のものであると云うことも過言ではな
く思はれる。